

第13分科会

「連携・接続」

下関支部

家庭・地域とのつながりと

異校種間接続の推進を図るために

第十三分科会は、三十のグループに別れ、総計約百九十名の参加。季節外れの高い気温と、会員の熱気の中、二つの提案発表と協議が行われた。

一つ目は、北海道豊浦町立豊浦小学校による地域に根ざし、地域に信頼される「地域参画型学校づくり」についての提案があった。グループ協議では、

都市部の会員から第一次産業の体験型活動ができるうらやましさを学校規模が小さいことによる地域とのつながりやすさについて話題が上がった。全体協議では、地域の声を聞けば学校として速やかにレスポンスすることが校長としての役割であり、

地域と学校をつなぐ教職員の人材育成や地域と学校がウィン・ウィンの関係になるような連携になる



ことが大切であるという意見が心に残った。

二つ目は、下関市校長会から「異校種間のよりよいつながりをつくり支えるために」学びの連続性を重視した小中連携・幼保小連携の取組から」について、①CSコーディネーターの育成、②「確かな学力の育成」を視点とする小中連携、③スタートカリキュラム・マネージメント、以上三点について動画を交えながらの提案があった。協議では、校長の役割と指導性を向上させるための七つのキーワードが話題になるなど、開催県の提案として高い評価を得たように感じた。

分科会に参加して、次の二点を確認することができた。視点①地域との連携では、学校の課題解決を踏まえ、校長の教育ビジョンと重なる活動内容を精査し、地域の教育的資源を活用する必要がある。

視点②異校種間の連携・接続では、現在、豊北地区において中学校区で「豊北地区めざす子ども像」をまとめ、地域をはじめ、幼保小中及び高校との連携を図ろうとしているが、その「めざす子ども像」について具体的な行動目標を決め、評価し、継続していくことが課題である。

(滝部小学校 田中隆司)

全連小山口大会を通して

全連小山口大会を終えて

県校長会の総力を挙げて運営された十月二十二日、二十三日両日の第六十七回全国連合小学校長会研究協議会山口大会が成功裡に終わった。

本大会は、「新たな知を拓き 人間性をめざす小学校教育の推進」を受け、本県らしさのじみ出た、「志を高くもち 未来へ向かって共にたくましく生きる子どもを育てる 学校経営の推進」を副主題に掲げ、「校長の役割と指導性」を説明しよう」と企図したものであった。

四年前、「全国大会はどんな内容で行われるのか」という素朴な疑問や不安の中で特命幹事を拝命した。

実行委員会の話し合いでは、「新主題が提起されて三年目にはどのような研究推進状況になっているのか」という未来予測や分科会場の設定等、研究や運営についての模索が続いた。そこでの結論は、「できることから一つ一つ積み重ねていく」ということであった。

研修部長を中心にした課題検討委員会では、全連小との往復の中で次第に明確な副主題と提案内容になってい

特命幹事

岡崎 智利



た。シンポジウムの企画では、本県出身著名人の業績と「志 未来創造 和をつなぐ」というスローガンとの関連性や流れを考慮することに意を配した。すばらしいシンポジウムの係や登壇者に恵まれたことに感謝したい。

総務部の一員として、旅行・イベント業者との役割分担で作成した「山口大会のご案内」「申し込み取りまとめ要領」等は、ロゴマークの完成と校長会事務局のご支援により、副主題の意図が伝わりやすいものができた。

また、「運営要項」や「運営委員会要項」では、事務局の情報収集や校正により、一層明確で使いやすいものが作成できた。運営部では、バスの手配、県の特産物を取り入れた弁当の工夫、丁寧な来賓への接待等、多くの先生方の力がそこに注がれた。大会要録には、豊かな山口の特色と各県の優れた研究内容が盛り込まれ分科会が活性化した。全員合唱「三百六十五歩のマーチ」の中で期せずして起こった拍手子、全国からの参会者に、当初願っていた山口県校長会の未来創造力と誠実なおもてなしが伝えられた思いがして、大きな感動と喜びが湧いた瞬間であった。